

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第 31 号／令和 5 年 12 月

URL <https://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

会長 土田正憲



75 年前の昭和 23 年 11 月 4 日、中小企業庁により企業経営の専門家を活用する「中小企業診断実施基本要領」が制定され「中小企業診断制度」が発足しました。このことを踏まえて、平成 28 年に 11 月 4 日を「中小企業診断士の日」とし、毎年この日の前後 1 週間程度の期間において各都道府県にある中小企業診断（士）協会が中小企業診断士を PR するためのイベントを開催しています。新潟県中小企業診断士協会（以下、「当協会」という。）は今年度、11 月 14 日（火）に朱鷺メッセにて「中小企業経営シンポジウム in 新潟」を開催しました。シンポジウムの内容など詳細については後述のページに譲りますが、当日は定員を超える参加申し込みがあり、これまでの開催で最も多い人数となりました。これもひとえに中小企業診断士ならびに当協会に対する皆さまのご理解の深まりととらえております。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、前述の中小企業診断実施基本要領が制定された昭和 23 年は中小企業庁が設置された年でもあります。そしてその 15 年後の昭和 38 年には、我が国の中小企業政策の憲法というべき「中小企

業基本法」が制定されました。この法律は平成 11 年に改正され、これにともない「中小企業指導法」が「中小企業支援法」に改正されました。「官が民を教え導く」という「指導」から「支援」に改められたのです。中小企業診断士の根拠法です。

常々申し上げていますが、VUCAといわれる昨今において、変革を求められているのは事業者だけではありません。支援者である我々中小企業診断士も変革を求められています。

伴走支援。その本質は事業者の心に寄り添い、自己成長を支援することだと私は考えています。企業支援における局面はさまざまであり、要求される内容や対応スピード等は異なります。しかしながら、どのような支援でも根本は同じなのです。こう捉えると中小企業の振興に資する中小企業診断士のあり方が見えてくるのではないのでしょうか。かく言う私はそのあり方を常に模索していますが。

本会は、新潟県中小企業診断士協会会員相互の連携を緊密にし、会員の指導及び資質の向上に努めるとともに、中小企業診断士制度の普及と推進を図り、もって中小企業の振興と国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

これは当協会の定款に示す目的です。同時に当協会の存在意義を表すものです。これからも目的からぶれることなく、中小企業の振興のために協会運営に取り組んでまいります。よろしくお願いたします。

協会活動報告

令和5年度北関東・信越ブロック会議

専務理事 平野康晴

令和5年11月22日(水)、新潟グランドホテル 波光の間において、一般社団法人中小企業診断協会 北関東・信越ブロック会議が開催されました。

茨城県、栃木県、群馬県、長野県、新潟県の各県協会、および連合会本部の会長・次席が一堂に会し、総勢14名での開催となりました。

司会進行は私、平野が担当。当協会 土田会長の開会挨拶で会議は幕を開けました。まずは出席者全員で自己紹介を行い、アイスブレイク。和やかな雰囲気の中で会議はスタートしました。



開会の挨拶をする土田会長

最初の議題は、連合会本部報告。連合会本部の松枝会長、野口専務理事、檜崎総務部長代理より、以下のテーマについて報告がありました。

- ① 令和6年度中小企業・小規模事業者・地域経済関係概算要求等ポイントについて
- ② 新しい診断協会の在り方に関する検討について
- ③ 「企業診断ニュース」Web版アンケートについて

報告後は質疑応答が行われ、前半の部は終了。休憩を挟んで後半の部がスタートしました。後半の議題は各県協会の報告と情報交換。各県協会の報告に、一同感心を持って聞き入り、活発な質問・意見が飛び交いました。また、課題やアイデアに

ついでの情報交換・意見交換も白熱しました。

当協会の報告においては、青年部の長谷川会長が青年部の活動について発表をする一幕が設けられました。長谷川会長の熱いプレゼンに沢山の質問と称賛が浴びせられ、この日一番の盛り上がりを見せていました。



青年部の活動について発表する長谷川青年部会長

4時間に及ぶ長丁場の会議の後は、お待ちかねの懇親会。新潟グランドホテルの美味しい料理とお酒に会話が弾み、大盛会となりました。二次会は名物居酒屋「喜ぐち」に一同をご案内。新潟の夜をとことん堪能していただきました。



会議出席者と運営スタッフ全員での記念撮影

事前準備から当日の運営まで大変でしたが、5年ぶりの新潟開催を成功裏に終わらせることができました。ご協力いただいた皆様方に、この場を借りて御礼申し上げます。

中小企業診断士の日イベント

「中小企業経営シンポジウム in 新潟」

広報委員会 樋口圭治

11月14日、朱鷺メッセにて、新潟県中小企業診断士協会主催による「中小企業経営シンポジウム in 新潟」が開催されました。

今年度は事前に（11月3日付け）新潟日報に開催告知の記事が載ったこともあり、前日までに104名の方から参加申し込みがありました。

当日は都合によりキャンセルされた方もいらっしゃいましたが、それでも約90名の方々からご参加いただきました。



開会の挨拶をする土田会長

当シンポジウムは、当協会会長による開催挨拶5分、基調講演90分、分科会45分というタイムテーブルで進行しました。

貴重講演では、(株)鈴木コーヒーの佐藤健之会長から「創業と守成いずれが難き」というテーマでご講演いただきました。



講演時の佐藤会長

話の内容は、現在3代続いている(株)鈴木コーヒーの2代目社長である佐藤健之氏の事業承継を軸にしたものでした。どのように社長職を引き継ぎ、またどのように後継者に渡したかを中心に、

経営者としての実体験をお話いただきました。

多くの参加者から、とてもおもしろかった、興味深かったといった声を聞くことができました。我々診断士にとっても、とても勉強になったと感じています。

また当日の参加者には、佐藤会長から(株)鈴木コーヒー60周年記念の珈琲をいただけるというサプライズもありました。

当日会場には、新潟日報とUX（新潟テレビ21）が取材に来ていました。

UXは、11月21日のニュースポットで、当日の様子が放映されました。開催の挨拶をする土田会長や、基調講演をいただいた佐藤会長の様子が映されていました。その模様は、UXのYouTubeチャンネルで観ることができます。YouTube画面で、「UX ニュース 11月21日 0A」で検索すると出てきますので、ぜひご覧ください。

新潟日報は、11月29日の朝刊の新潟面という新聞の真ん中あたりのページに記載されました。こちらも講演する佐藤会長の様子が紹介されていました。

このように当日の様子がマスメディアにも紹介され、中小企業診断士が多くのの人からより認知されたのではないのでしょうか。

基調講演終了後、新潟県中小企業診断士協会会員3名による分科会が、各会場に分かれて行われました。

山子顕会員は、「クラウドを活用した経営力再構築伴走支援」、赤塚浩一会員は、「生成AI活用時のリスクヘッジ戦略 ～知財・個人情報・情報セキュリティ～」、市川明弘会員は「介護・障害者施設の“攻め”のコンプライアンス ～法令遵守と業務効率化～」というテーマで、それぞれ講演が行われました。

私の印象ですが、それぞれのテーマを反映してか、山子会員の講演には支援機関の方、赤塚会員の講演には一般企業の方、市川会員の講演には女性の方が集まったように感じられました。

諦めずに道開いて

鈴木コーヒー会長が講演

中央区・中小企業シンポ

中小企業経営をテーマにしたシンポジウムが、新潟市中央区の朱鷺メッセで開かれた。鈴木コーヒー（新潟市中央区）の佐藤健之会長（70）が講演。会社が存続の危機に直面した際の苦勞を振り返り、「諦めないことが大切。道は必ずある」と語った。

県中小企業診断士協会が14日に主催。経営者や支援機関など約100人が



参加した。

佐藤会長は20代の頃、創業者の父の右腕だった社員が独立して立ち上げた新会社に、大半の社員を引き抜かれた経験を紹介。事業の立て直しにパソコ

ンを使った利益管理に取り組んだことなどを挙げ、「改革は形から。社員は改革を嫌うし、自分もしんどいが、やらざるを得ない仕組みづくりが大事。商売は常在戦場だ」と強調した。

佐藤会長は、雪室で熟成した食品のブランド化プロジェクトや、ピア万代の立ち上げにも携わった。「青年会議所や異業種団体などで培ったネットワークがあったから実現できた」とし、中小企業が連携することの大切さを語った。

写真＝中小企業の連携の大切さを語った鈴木コーヒーの佐藤健之会長＝新潟市中央区万代島

新潟日報 令和5年11月29日版 10ページ

シンポジウム終了後、場所をホテル日航新潟 30階「鳳凰」に移動し、懇親会が行われました。基調講演をいただいた佐藤会長を含め、当協会会員診断士と一般参加者合わせて約 30 名の方々からご参加いただきました。



懇親会で乾杯の挨拶をする土田会長

分科会講師報告 1

山子顕

私からは「クラウドを活用した経営力再構築伴走支援」というテーマで発表させていただきました。私は、すべての中小企業が適切に経営管理し、支援機関とデータ連携し支え合う世の中を目指しています。そこでは、事業者と各種支援機関金融機関、会計事務所、がリアルタイムにムダムラなく繋がり、点と点の個別の接点から面的な伴走支援で地域全体が底上げされます。企業は利益を増やし、社員に還元し、社会がより豊かになります。

そのために事業計画・予実管理・KPI 管理・タスク管理を一体化したクラウド経営管理 SaaS の開発に向けた取り組みを紹介するとともに、多様な立場からあるべき経営管理の枠組みや伴走支援の在り方について、ディスカッションさせていただきました。



講演時の山子会員

分科会講師報告 2

赤塚浩一

生成 AI が ICT 技術者・専門家だけのものから、経営者・学生を含む社会人一般のリテラシーとして登場してまだ一年です。公的機関・業界団体等での生成 AI 利用方針・ガイドライン策定は始まったばかりであり、まだ確立していません。

本来は、これらが確定し公開されてから、セミナーで取り上げるべきですが、生成 AI 利用の動きはあまりにも急激であり、法規制の運用やガイドラインの確立を待っていたのでは、手遅れになるリスクがあります。

今回の分科会では上記リスクを考慮して、現時点での最新情報に、敢えて未確定の推測・予測情報を加えて、全体のストーリーを構築しました。従って今後の展開によっては、今回お話しした内容の修正・見直しが必要になる、新たなリスクも生じています。このような新たなリスク発生を覚悟しなければならないほど、「With 生成 AI 時代」が急速かつ劇的に進展していることの、危機意識がお伝えできていれば幸いです。

新入会員紹介

河井智仁



河井智仁と申します。令和4年度の試験に合格し、今年の春から準会員として、青年部会や受験生支援の会に参加いたしました。夏に実務補習を行い、11月に診断士登録されました。診断士を目指したきっかけは、大

学生のころ経営学や簿記に出会い、当時の日商簿記2級や初級シスアドの勉強などしていました。この経験を活かせ、仕事の役に立つと考えて挑戦しました。

本業は、燕市で厨房用品の輸入卸と少量の製造も行っています。海外のメーカーや商社から商品を輸入し、自社で在庫を保有し、主に地元の商社様へ販売するという事業をしております。親が30年程前に始めて、私は5年前に代表になりました。小規模な会社なので、商品企画、販売、総務、経理、発注からフォークリフトでの入庫作業など様々な業務をしています。今後は、本業での仕事を継続しつつ、診断士であることを活かして、同じ経営者としての悩みに共感し、気軽に話し合えるような診断士になりたいと思っております。

私は生まれも育ちも燕市ですが、現在は新潟市に住み、妻・息子5歳・娘3歳の4人で生活しています。子どもにはまだ手のかかることも多く、パパとして苦戦する日々です。趣味は、中学生のころからギターやバンド活動に熱中し、ロック系バンドのコピーをして楽しんでいました。今ではあまり楽器に触れていませんが、音楽を聴いたり新製品のギターを調べたりすることが好きです。また、家族で旅行を計画し、いろいろな場所へ行くことも楽しみの一つです。今後ともよろしく願いいたします。



講演時の赤塚会員

分科会講師報告 3

市川明弘

「字面の背景にある本質を読みとりなさい。」

私の師匠の教えの一つです。“空き缶のポイ捨て禁止”と書かれているからといって、ペットボトルなら捨ててもよいわけではありません。

それは、コンプライアンス体制を整備するときも同様です。法令等の字面だけを追うのではなく、その条文が規定された背景を知り、本質に迫った体制を整備することが重要です。

そのため、介護・障害者施設においてコンプライアンス体制の整備が求められることになった背景から順を追ってお話をさせていただきました。

そして、コンプライアンス体制の整備を進めることで、組織防衛と組織改善の両面において効果が期待できることを、具体的な事例を交えて説明をさせていただきました。

この度は貴重な機会をいただきました。



講演時の市川会員

原祐次朗



2022年11月に入会しました。私の強みはITとDX分野にあります。経験と知識を活かし、中小企業がデジタル変革を実現し、競争力を高めるお手伝いをしています。

戦略的なITソリューションや効率化の提案、DX戦略の立案・実行を通じて、クライアントの成長に貢献します。常に新しいテクノロジーを追求し、ビジネスに活かす方法を模索しています。業界の変化に対応し、最適なデジタル戦略を提供することで、企業の未来を支援します。

って、ここまでの文章、どう思いますか？

実は自然言語処理AIに作らせた文章です。注文は、「中小企業診断士になりました。僕の強みはIT・DXです。200文字で自己紹介文を作って」という感じで。

僕は、コンサルファームで働いていますが、今やコイツなしには仕事できません。必然的に僕らのバリューは、相対的に減っていくこととなります。こればかりはジタバタしてもしょうがない。

でも、いつか僕らが（資本主義的な文脈で）無価値になるか？といえ、そうは思わない。

僕は、機械がどこまで力をつけようとも、人間が「誰が言ったか」に感情を動かされる動物だという宿命からは逃れられないと思うわけです。だから、機械がいつも高確率で正解を出せるとしても、それを信頼できる誰かがラッピングしてお届けすることにマネーが動く。政治は大昔からこの仕組み。表に出る政治家の裏には台本を作るエリート官僚がいて、そうだとってもヒーローは常に政治家です。最近は残念な政治家が多いようにも思えますが。

「彼がこう言ったから」と言われるような、そんな彼になりたいものです。それではこの辺で。皆さん今日も良い一日を。

戸松隆宏



このたび入会しました、戸松隆宏と申します。長岡市出身で、現在は上越市在住です。東京の大学を卒業後、新潟県に戻り、小売業、製造業での勤務を経て、現在の地方公共団体に転職しました。

中小企業診断士を目指したきっかけは、平成23年、県の産業支援機関に出向した際、出向先の先輩に受験を勧められ、試験勉強を通じた知識が中小企業支援に有用なのは、と考えたためです。

1次試験は1回目で合格したものの、2次試験は、毎年、試験直前期が仕事の繁忙期と重なり、準備や実力不足での不合格が続き、一度診断士への道は完全に諦めました。

令和2年、コロナ禍で苦しむ中小企業の役に立ちたいと、12月末から勉強を再開。令和3年の1次試験に合格も同年2次試験は再び不合格に。そこでオンラインの勉強会に参加し、全国の受験生と答案の改善点を指摘し合い解答力を磨きました。少しずつ手応えを感じつつ、妻との約束で最後の挑戦として令和4年の2次試験に挑みました。

令和5年1月の合格発表日には妻と一緒にPC前で待機。中小企業庁HPで自分の受験番号を発見した際、「え、番号がある…合格、だよね!？」と驚き過ぎて何度も見返したことを覚えています。

合格発表後すぐに2、7、8月の実務補習に参加。10月に診断士登録が完了しました。官報掲載されることを楽しみにしていましたが、中小企業庁HPへの掲載のみに変更されたのです。残念…。

現在、地方公共団体の中小企業支援の部署で、学んだ知識をいかし、中小企業向けの補助制度の立案や運用、中心市街地や商店街の活性化の事業に関係者と一緒に取り組んでいます。

今後は、プロボノ活動でも中小企業支援に携わり、企業振興や地域活性化に役立ちたいと考えておりますので、諸先輩方、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

松原大



初めまして、松原大と申します。よろしくお願ひ致します。出身は茨城、富山大学在学中に一年間中国の大連に留学していました。職歴は建設設備の機械メーカーで始まり、東京でルート営業を5年、

名古屋を拠点としてアジア地域の海外営業を9年半、タイに1年弱駐在しました。2022年に機械メーカーを退職・帰国し、新潟のSaaS企業で製品企画・顧客導入支援・UI設計に1年間従事し、2023年9月に独立しました。

診断士を志した切っ掛けは、2012年に海外営業に転属したことでした。そこでの私の最初の戦いは①ADSLの解約と光回線の契約、②複合機の導入、③毎月8時間かけた手集計の自動化でした(笑)。この会社は大企業でしたが、海外事業は間接部門の支援対象外で、あらゆる業務を数名の自部署内で行っており、10年以上遅れた環境にいることに誰も気づいていなかったのです。海外業務10年強を通じて感じたのは、「だから中国・海外に勝てない」でした。人的・資金的リソースの不足、機能別に分化できない、新たな風が入らない等は多くの中小企業も同じ状況だと思ひます。そうした企業力になりたく、独立しました。

やってきた事は、海外の販路・修理業者・サプライヤー開拓、海外代理店契約・管理・支援、pythonとgoogle翻訳APIによる資料の多言語化、システム設計、業務フロー構築とVBAによる自動化、webサイト設計、修理マニュアル動画編集、カタログ等印刷物の入稿データのデザイン・作成、拠点間webアプリ用サーバ構築などです。診断士は何から始めたら良いかわかりません。教えてください！

中村泰規



初めまして。中村泰規と申します。令和5年1月に中小企業診断士試験に合格いたしました。未だ登録前の身ではありますが、

準会員として新潟県中小企業診断士協会の末席を汚しながら、協会の活動に少しずつ参加させていただいております。

現在は自動車部品関係の製造業に勤めています。長く生産現場の改善に携わっており、標準作業の策定や作業効率の向上、品質不良や生産性の改善といった業務を行ってまいりました。本年度より開発課に移動し、新規工法の開発などに従事しています。また特許等の知的財産に関する業務も少し担当させていただいている次第です。

あまり趣味の多い方ではありませんが、子が生まれるまではマラソンを趣味とし、友人と国内の大会を漫遊しておりました。また、小、中と野球部に所属していた過去があり、出身が愛知県ということもあって、長く中日ドラゴンズのファンをやっています。落合監督退任以後の長い低迷には、ただただ枕を濡らすばかりです。

また、中小企業診断士受験生の多くが使用する参考書「ふぞろいな合格答案」プロジェクトにも参加し、今年発売された最新版の編集に携わらせていただきました。そのご縁で、雑誌「企業診断」の連載の話を頂き、来年度より診断士試験に関するコーナーをふぞろいメンバー数人と担当する予定です。こちらも、お暇があればご覧いただければ幸いです。

中小企業診断士として地域の発展に貢献する人材となるべく精進いたします。皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

クリップボード

堀内慶大



皆様、はじめまして。このたび、新潟県中小企業診断士協会に入会させて頂きました長岡市在住の堀内慶大（ほりうち けいた）と申します。平成4年生まれの31歳でございます。

長岡市で生まれ育ち、地元の高校を卒業後、東京の大学に進学しました。専攻は経済学/統計学、部活は剣道に打ち込みました。大学卒業後は大阪の電機メーカーで4年間会計業務に従事しましたが、会社経営をしていた祖父の事故をきっかけに、故郷長岡に戻り、事業承継をスタートしました。中小企業診断士は網羅的な経営勉強の一環として帰郷後の令和2年に学習を開始し、令和4年に2次試験合格、令和5年3月に実務補習修了、同年5月に診断士登録を行いました。

現在は、2代目として6社のグループ経営、事業経営、事業承継を行っております。主な事業領域は3つございます。消防設備の工事/点検を行う「防災事業」、電気/通信設備の工事を行う「電設事業」、精密機器組立を行う「製造事業」でございます。普段は作業服を着ながら、経営管理や営業活動、施工管理業務を行っております。喫緊の課題は「生産性向上」と「人材確保」と認識しております。試行錯誤を繰り返しながら様々な施策に取り組んでおり、最近では施工管理/保守点検などのDXによる業務改革や、働きやすい職場環境に向けた「ユースエール制度」、「ハッピー・パートナー企業」、「健康経営優良法人認定」などの認定制度取得/活用に注力しております。

今後は、新潟を盛り上げるべく、当協会の活動を通じて新潟と中小企業の皆様に少しでも貢献できるよう、誠心誠意、愚直に尽力していく所存でございます。特に事業承継、後継者問題は実体験を活かしながらのご支援が出来れば幸いです。諸先輩方の皆様におかれましては、未熟な若年者ではございますが、何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

- ◆令和6年2月3日（土）
新春講演会および新年会
- ◆令和5年11月18日（土）～
令和6年2月10日（土）全5回
事業承継・中小M&A研究会
「事業承継支援専門家研修」
- ◆令和6年1月27日（土）
「中小企業診断士を目指す人の
情報交換サロン」

その他近況報告

◇令和5年12月1日（金）

「11の専門家による無料相談会」

編集後記

広報委員会 樋口圭治

11月は、「中小企業経営シンポジウム in 新潟」や「北関東・信越ブロック会議」、更には12月1日に「11の専門家による無料相談会」と、新潟県中小企業診断士協会にとって、イベントが重なり忙しい月になったと思います。おかげ様で、いずれのイベントも無事乗り切ることができたのではないかと感じています。

我が広報委員会は、4月から「中小企業経営シンポジウム in 新潟」の準備に取り組んでまいりました。今年度は比較的スムーズに進行できたと考えています。早い段階で、(株)鈴木コーヒーの佐藤会長から基調講演の承諾を得ることができました。また分科会の講師も、早い段階で3名の会員から手を挙げていただいたおかげで、早めに計画を進めることができました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

今回のスープレターでは、後半に6名の新入会員の紹介を載せました。新入会員の皆様、是非研究会や委員会、また青年部や同好会にご加入ください。今後の新潟県中小企業診断士協会を共に盛り上げていきましょう。